

CA1
EA947
B71
#6 Jul. 1976
DOCS



1976年7月
No.6




EXTERNAL AFFAIRS
AFFAIRES EXTERIEURES
OTTAWA
JUL 22 1976
LIBRARY / BIBLIOTHÈQUE



- カナダ建国記念日を迎えて(ランキン大使)——2
- より広く、より深い相互理解を(近藤日加協会会長)——2
- オリンピック大会開幕へ——3
- オリンピック・ア・ラ・カルテ——4
- 国際都市モントリオール——4
- カナダのオリンピック選手——6
- 景気回復をねらう新予算案——6
- 自己依存を求める新エネルギー政策——7
- トピックス——8

Bulletin Canada

発行  カナダ大使館

より広くより深い相互理解のために

■日加協会会長 近藤晋一

一九七四年九月の田中・トルドー両首相の共同声明は、「日加両国が今後さらに政治、経済、文化、科学技術等多岐にわたる分野で協力関係を育成拡大し、もっと日加関係の基礎を一層幅広く、深みあるものにすることに同意した。両者はかくして日加関係の新時代の幕が開かれることを希望した」と述べている。これは従来日加協力関係が経済貿易の分野のみに集中していたのを、より多角的な分野で発展させようとの方針を示したものである。そして日加関係において「新時代」の扉が開かれるか否かは、両国政府の今後の努力もさることながら、基本的には、日加両国の国民的基礎の上に相互理解と親善関係を築き上げることにかかっているといえる。

日加関係の緊密化に伴ない、両国の各分野での交流も盛んになっている。政府間では日加閣僚委員会の定期的開催や事務レベルでの各種の協議が行われている。カナダの州政府も東京に駐在員事務所を設置したり、政府使節団を訪日させている。カナダの連邦議会と日本の国会の間でも議員団の交流が始められている。また各種の民間使節団の相互訪問も次第に活発となつていく。カナダを訪れる日本人の観光客の数も年々増加し、昨年は九万人を越えたといわれる。このような日加両国の国民各層の交流の活発化は、相互理解と親善の増進に寄与しているし、歓迎すべきことであることは言うまでもない。しかしながら、日本のカナダに対する関心と理解、またカナダの対日

関心と理解は、双方の国民の間に広範にまた深く浸透しているであろうか。わが国でカナダに関心と理解を抱いている人々は、カナダと商売上の関係をもつ者、カナダに在勤した者、カナダに観光旅行をした者など限られた範囲に止まっているのが実情である。日本のマスメディアにしても、時々発行されるカナダの特集号を除き、カナダに関して報道することは極めて稀れであるし、日本の大学、研究機関においてカナダ研究を専門にしている者は十指にも満たないであろう。日加関係の「新時代」が外交的辞令でなく、実質的な成果を挙げることには、まだ前途遼遠といわざるをえない。

日加両国民間の理解と親善の増進を目的とする日加協会は、わが国に数多くある友好団体の中でも歴史の古い団体のひとつである。この協会は、日加両国が外交関係を設定した一九二九年の翌年発足した。第二次世界大戦中はその活動を中止していたが、

カナダは七月一日、建国百九周年を迎えた。この百九十年の間に、わが国は北米大西洋岸にあつた四つの植民州から、三つの大洋にまたがり、世界第二の面積をもつ一国家へと発展した。また、産業形態も、農業と資源中心の経済から国内および海外向けの高度な製造加工工業に重点を置いた経済へと変遷し、外交関係もこうした発展と軌を一にして拡大してきた。

太平洋国家カナダのアジア、特に日本に対する関心は古い。日加間の接触は百年以上にさかのぼる。来年は長崎県出身の永野万蔵氏が日本人としてはじめてカナダに渡つてから百年目に当たり、カナ

の希望を表明した。以来、両国政府は今後一層の協力関係を大きく約束するいくつかの経済領域を洗い出し、これらの領域について積極的に取り組んでいる。こうした協力関係は、経済の分野だけに限らない。両国は国民間の相互理解を深めたい意向であり、その意図をふまえて文化、学術交流を奨励し、かつお互いの国につい

ての知識を広める努力を続けている。今年には特にオリンピック大会がカナダで開催される年でもあり、多くの日本人がわが国を訪問し、また訪問しない人びとも新聞やテレビ、ラジオを通じてカナダについて知る機会が多いと思う。こうしたことを契機に、できるだけ多くの日本人がカナダに対する関心を高めることを期待したい。

カナダ建国記念日を迎えて



駐日カナダ大使 ブルース・ランキン

表紙 モントリオール・オリンピック大会はいよいよ七月十七日に開幕。そこで今号は大会の準備や諸施設、モントリオール市、カナダ選手の訓練状況などにスポットを当ててみた。記事は二一六ページ。

を期待したい。本紙も今号で発行一年になる。本紙を通じて、読者各位がカナダ社会の諸面について知識をふやし、またカナダとカナダ国民についてもっと理解を深めたいという気持になつたとすれば、これ以上のことはない。今後とも、ご愛読を希望する。

サンフランシスコ平和条約成立後、一九五二年に再建されて今日に至っている。現在日加協会の会員数は、個人会員一五二名、法人会員一二六社にすぎないが、日加協力関係の促進に関心をもつ日本及びカナダの人々を中核として、その輪を逐次広げることによって、両国民間の相互理解と親善の増進に貢献することを念願としている。

日加協会の主な活動は、(1)カナダ連邦及び州政府の首脳又は使節団の訪日に際して、日本の民間人との交歓の機会をつくること、(2)在日カナダ企業及びカナダ人との交流を促進すること、(3)カナダ事情に関する資料の提供と講演会を開催すること、(4)カナダとの文化、教育の交流を斡旋すること、(5)カナダに所在する対日友好諸団体との交流をはかること、(6)日加協会の会員相互の親睦のため各種の催し物を行うこと等である。卒直に言つて、日加協会の財政的基礎がいまだ充分確立されていないために、協会の活動は満足すべきものであるとはいえない。しかしながら、日加協会はその限られた能力の範囲内において最善の努力をしている。協会はその事業活動の実施に当つて、わが外務省及び在京カナダ大使館と常時緊密な連絡をとると共に、関西日加協会及び昨年設立されたカナダ実業人協会とも協力している。

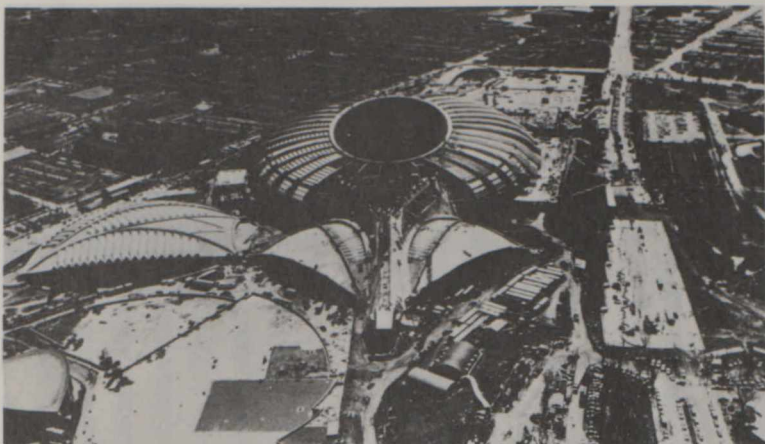
(近藤氏は元駐加大使)

オリンピック大会 いよいよ7月17日開幕

◀オリンピック・パーク

第二十一回オリンピック大会が七月十七日、いよいよモントリオールで開幕する。世界百十カ国以上の選手たちが、八月一日までの二週間、陸上、水上、バスケットボール、体操、柔道、レスリング、カヌーなど二十一の種目で、より速く、より高く、より強く、と、それぞれの力を競う。

モントリオールにとって、オリンピック大会の開催は長年の夢であった。すでにクーベルタン男爵がオリンピック大会復興を呼びかける五十年前も前に、モントリオールは幅飛び、高飛び、三段飛び、ハンマー投げ、円盤投げ、百メートル競走、四百メートル競走などからなるミニ・オリンピック大会を開き、近代オリンピックに先鞭をつけている。そして一九二



九年には三二年冬季オリンピック開催に立候補し、十年後には一九四四年冬季大会の候補地となった。一九六六年には七二年夏季大会を誘致したが不成功に終り、七〇年にモスクワ、ロサンゼルスと争ってようやく夢を実現することになったわけである。

大会は、ヨットがオンタリオ湖岸にあるキングストン（人口六万）のオリンピック・ヨット・センター、サッカーやハンドボールの一部がトロントやオタワで行なわれる以外、すべてモントリオール市内または隣接地で催される。競技の大半は、モントリオールの中心部からわずか五キロ（地下鉄で十五分以内）にあるオリンピック・パーク内の諸競技場で行なわれる。パークは、世界的に有名な大植物園や市営ゴルフ場などを擁する広さ五百五エーカーのメゾヌープ公園内にあつて、いずれもモントリオールでオリンピック大会が開かれればここだ、と四十年前も前から大スポーツ・センターとして開発を待っていたところ。パークの広さは百十五エーカーもある。

パーク内には、誘致決定前にすでにメゾヌープ・スポーツ・センターとモリス・リチャード・アリーナが建設されていて、大会ではレスリング（両施設）とボクシング（アリーナ）の競技場として利用される。

競技の八割は既設の施設で行なわれる。しかし、目玉はやはり新築されたオリンピック・スタジアム兼水泳競技場にペロドーム（自転車競技場）、それに千人近くの各国選手や役員が宿泊するオリンピック村だ。スタジアム・水泳競技場は一見ひとつの構造物に見えて、実は地上百六十メートルのマスト（大会後に完成）、水泳競技場、スタジアムの三つの建物からできている。マストの内部には十八階の建物ができると予定で、最上の二階は市全体を眺望するレストランになる。その他の階は練習場にとつてあるが、大会後



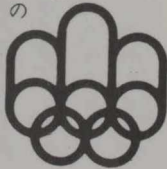
はいろいろなスポーツの競技場として使用される。マストはスタジアムの競技場を覆う屋根をなすほか、水泳競技場とスタジアムの一部を形造っている。水泳競技場は五階建てで、

五〇メートル・プール二つにダイビング用プール一つ、そのほかロッカー・ルームやレストラン、休憩場、サウナ風呂などを置く。スタジアムは各種陸上競技、馬術、サッカー、近代五種が行なわれる主競技場で、三十四本の片持ちばり（梁）を組合せ、内部に一本の柱も使わない、大テント状長円形の建物だ。

スタジアムはマストから懸架した取外し自在の屋根をかぶせることになつてお

オリンピック・アラ・カルテ

公式シンボル・マーク



手をつなぎ合う世界、オリンピック理想の継続を象徴する五つの輪、その上に図形化したのせたモントリオールの頭文字M、そしてオリンピック・スタジアムのトラックを示す、Mの中心と五輪の中心を結ぶ長円——モントリオール大会のシンボル・マークは、オリンピック大会の理想である兄弟愛、勝利の栄光、モントリオールのオリンピック都市としての誇りを想起させる。

り、大会後は冬でも野球やサッカー、フットボールなどができる。

ペロドームは貝に似た建物で、自転車競走、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、柔道、ボクシング、テニスなどの競技が行なわれるようになっている。屋根は九十メートルの大アーチになつていて、視界をさええられ、ことなくいろいろな競技を観覧できる。

オリンピック大会期間中、約一万人の選手、役員が宿泊するオリンピック村は、四棟の半ピラミッド形の建物からなる。三棟が男性用、一棟が女性だ。地下には食堂、通信、医療、サウナなどの施設が揃っているほか、レクレーションや社交、ショッピング用のインターナショナル・センター、および病院がすぐ近くにあって、至つて便利だ。オリンピック大会同様、男女や国籍などの違いを取り外して、世界のスポーツ選手たちが集う場所——それがオリンピック村だ。

聖火

ギリシャのオリンピアで太陽熱から点火されたオリンピック聖火はアテネまで運ばれると、そこで電離した分子が電波信号に変えられ、通信衛星によつて一瞬のうちにオタワへ送られる。電波信号はレーザー光線によつて元の聖火に再生され、リレー走者によつてモントリオールへ運ばれる。

COJO

COJO（コージョー）とは、モンペ



ロジェ・ルソー氏

トリオール大会の開催を準備してきたオリンピック大会組織委員会の頭文字。国際オリンピック委員会から大会の組織を委託されたカナダ・オリンピック協会からさらに委託を受けて、大会の準備と実施に当る。委員長（兼理事長）はロジェ・ルソー氏。

文化行事

モントリオール大会での文化行事は、カナダの代表的文化、芸術活動を中心に展開する。内容は、カナダのトップクラスの芸能人（グループまたは個人）によるオペラ、オペレッタ、バレエ、モダン・ダンス、フォーク・ダンス、コンサート、リサイタル、演劇、映画上映などに、絵画や彫刻、手芸などの展示と製作、と多彩。

エリザベス女王

オリンピック大会の開会式は七月十七日。カナダの国家元首であるエリザベス女王が開会を宣言する。

オリンピック放送・報道

オリンピック大会は世界的な報道戦でもある。モントリオール大会には世界各国から放送記者およそ三千人、新聞・雑誌記者約二千人、通信社の運動部記者約五百五十人が、この取材合戦に参加する。モントリオールにおかれた百のラジオ・スタジオ、二十のテレビ・スタジオからは、大会の様子が通信衛星を通じて、あるいは録画などによって、七十以上の言葉で世界中に放送される。テレビおよびラジオ放送に必要なあらゆるサービスや

機材（音声、フィルムを含む）は、カナダ放送会社が設立したORTO（オリンピック・ラジオ・テレビ組織）が提供する。

なお、プレス・センターは都心の近代的建物プラス・デジャルデン内にあって、あらゆる報道用施設が完備している。

日本へのオリンピック中継は、NHKと民放が共同で行なう。NHK四十八人、民放十九人、計六十七人からなる共同取材班が取材、制作に当たり、開・閉会式をはじめ、競技の様態などを中継する。

テレビは大会中五十時間日本へ衛星中継、ラジオは約九十時間送信され、各局がそれぞれ生中継や録画再放送を組む。

オリンピック

マスケット

モントリオール・オリンピック大会のマスケットは、カナダの歴史に重要な地位を占めるピーパー。勤勉と忍耐強さで知られるこの小動物は、毛皮交易を中心とした初期のカナダにおいて、経済、開拓の両面で大きく貢献したことが認められて、カナダのシンボルとして大切にされているほか、硬貨や切手のデザインにも使われている。このマスケットは、インディアンのアルゴンキン語で「ピーパー」を意味する「アニック」と名付けられている。



費用

モントリオール・オリンピック大会の

主要財源はオリンピック富クジ、記念切手、記念硬貨、入場券などの売上げ、ラジオ・テレビの放送権と免許、売店の出店権からの収入。

連邦政府の立法措置による富クジ、記念硬貨、記念スタンプの販売により、三億六千万ドルの財源が見込まれているが、連邦政府としてはさらに、警備、出入管理、オリンピック放送、その他専門官などの政府関係者の出向などの形で、約一億五千万ドルを補助する。

警備

オリンピック期間中に世界中から訪れる何十万の人びとを守るため、モントリオール市警察、ケベック州警察、オンタリオ州警察、カナダ連邦警察（騎馬警察）、それにカナダ軍が一万六千人を投入、一体となって警戒態勢をしく。

モントリオール

商業・文化・料理の国際都市

一五三五年十月二日、カナダへの第二回目の航海でセント・ローレンス川を朔（そ）航していたフランスの探検家ジャック・カルチエは、途中で大きな島を発見した。そこには、小高い丘を背にした丸太小屋五、六〇戸の村があって、ホケラガというインディアンの部族が住んでいた。カルチエは、インディアンのちが狩場にしていたその丘を「モン・ロワイエル」（英語でマウント・ロイヤル）と命名した。その島が今日のモントリオールである。

カルチエの発見から四百四十一年、

宿泊

オリンピック期間中のモントリオール訪問予定者は、推定四十万人。ケベック州政府は宿泊局——HEQUO76——を設けて、大会期間中の宿泊施設に関する情報を提供し、旅行者の相談に応じることになっている。モントリオール市では昨年から今年にかけてホテルの建設が相次いでいるほか、ユース・ホステルやトレジャー・ホーム、民宿なども多いので、あまり心配はなさそう。

天候

過去九十年間の記録からすると、七月中旬から八月下旬のモントリオールは、平均気温摂氏二一・六度、平均湿度五八パーセント、風速四・三メートルで、絶好のスポーツ日和になりそう。

ポール・ド・シヨムテイ・ド・メゾヌーブ神父がカトリック植民隊を率いて入植してから三百三十余年たった現在、モントリオールは人口四百四十万（市街地を含めると二百八十万）を擁するカナダ最大の都市、商工業の中心地、フランス的雰囲気をもった国際都市へと大きく変貌した。セント・ローレンス川という、大西洋と五大湖を結ぶ自然の要路に位置するモントリオールは、重要な交通・貿易の中枢地として、また商工業の一大センターとして発展するよう、運命づけられている。

たといつてよい。英仏間の抗争、イン
ディアンとの争い、米軍の侵攻、大火、
伝染病といういくつもの試練をへながら、
当初は西方探検の根拠地として、のちに
は毛皮交易の中心地、そして穀物、鉱物、
工業品の大貿易港として栄えてきた。二
〇世紀の初めには、モンクトリオールの人
口はすでに五十万に達し、港では年間千
隻近くの船が二百数十万トンの貨物をさ
ばいていた。鉄道

も四方八方に急速
に伸び、モンクトリ
オールはケベック
市、米国メーン州
ポートランド、ニ
ューヨーク、トロ
ント、そしてつい
にはバンクーバー
と結ばれた。こう
した発展が基盤と
なって、モンクトリ
オールはさらに金
融および産業を発
達させた。そして
モンクトリオールが
成長するにつれて、
周辺の地域が必要
な技能労働者を供
給した。

▼オリンピック開催を待つモンクトリオール。マウント・ロイヤルからセント・ローレンス川を眺む。



過半数を制するようになる。現在の人口
比率は、フランス系住民二に対し英国系
およびその他の移住者一の割合となつて
おり、フランス語の都市としてはパリに
次いで世界で二番目に大きい。モンクトリ
オールは、フランス料理の中心地であり、
同時に国際色豊かなショッピングと芸術
と文化の町としても名高い。

一九六七年、ここで万国博覧会が開催

され、国際都市
モンクトリオール
の名を一層高め
たことは、まだ
記憶に新しい。

商業の中心

地 モンクトリオールは海洋から千五百キロも奥に位置しながら、世界最大の内陸港に恵まれている。このため、石油化学、電子機器、航空機、鉄道、雑貨、繊維、製紙などを始めとする諸産業が大きく伸びることになった。

モンクトリオールはまたカナダ国営鉄道

とカナダ・パシフィック鉄道の本拠地で、

四方八方にのびる鉄道網がモンクトリオールを北米大陸の主要都市と結ぶ。さらに

国際民間航空機関および国際航空運送協

会の事務局の所在地として、世界的な航

空センターともなっている。昨年はモン

クトリオール郊外にミラベル大空港がオー

ブシした。

文化の町

モンクトリオールは芸術や科学の育成発展に熱心なことで知られ、また二つのフランス語系大学、二つの英語系大学の所在地でもある。医学、科学研究、演奏および演劇活動の分野でも、モンクトリオールは世界的名声を博している。特にモンクトリオール交響楽団の本拠地、世界一流のコンサートや劇などの上演で有名。その他、プラネタリウムあり、水族館あり、大植物園や現代美術館ありで、まさに文化都市の名にふさわしい。さらに、万博会場の跡地では、毎年「人類とその世界」と称する文化的催しが行なわれる。

観光の町

モンクトリオールは、フランスやイギリスを始め、世界各国からやってきた人びとが作った、国際色豊かな都市だ。それぞれの人びとが、新しい環境にとけ込みながら、一方では自分たちの伝統や文化を大切に守ってきた。そこから宗教や言葉、あるいは服装や生活方法まできわめてバラエティに豊み、誰にも親しみやすい国際都市が生まれたわけである。

モンクトリオールの大きな特徴のひとつは、レストランが多く、料理がうまいということである。六千を越えるレストランが、世界約三十カ国の味を腕によりをかけて供する。ワインもそれぞれのレストランが特に選んで取りよせたものだ。

ホテルも特に万博を契機に多数新築され、またオリンピック大会を控えてその数や種類はさらに大幅にふえた。市当局では世界中からやってくるオリンピック見学者を、客のふところ具合いや好みに応じて、すべて収容できるといふ。



▲旧モンクトリオールの裁判所

モンクトリオールは世界で唯一の、四次元都市と呼ばれているように、地下にまで街が広がっている。地上の交通混雑や雪の日の困難をよそに、地下ではメトロ(地下鉄)が縦横にのび、デイスコテックなどのショッピング街が広く深く展開する。地下街は主なデパートやホテル、レストラン、劇場などへ通じていて、地上にできることなしに何でも用が足せる。

地上は新旧の建築物が対照の妙をなす。プラス・ビル・マリーの十字架形高層ビル、世界第二の大商業ビルとして名高いプラス・ボナベンチャー、芸術センターのプラス・デザーツ、コンプレ・デジャールデザインなどが建並ぶ近代的な中心街から一步入ると、そこはもう過去の世界だ。プラス・ゲーム、ノートル・ダム教会(七千人収容)、旧裁判所(現在はオリンピック組織委員会の事務局が所在)、ジャック・カルチエー広場、ボンスクール市場などの名所旧跡が、旧モンクトリオールとして昔の植民時代の名残りとどめる。そのほかにも、カナダで最大のプラネタリウム、聖ジョセフ礼拝堂、セント・ヘレン島の水族館や軍事博物館など、名所には事欠かないが、モンクトリオールの名が由来したマウント・ロイヤルだけは忘れてはならない。そこからの眺望は、夜昼を問わず、天下一品だ。

カナダの新年度予算案

インフレと失業対策が主眼

カナダのドナルド・マクドナルド大蔵大臣は、五月、一九七六年度の予算案を下院に提出した。予算案の骨子は、現在のインフレ対策のうち物価と利益に関する公正と効果を改善する措置、およびエネルギー節約および資源探査を奨励し中小企業を刺激する税法の改正を求めるほか、六月三十日に廃止する予定だった暫定関税削減のほとんどをあと一年間延長

する——という

もの。
マクドナルド大蔵大臣は、この予算案について、インフレと失業問題への対処とインフレ対策を補強する財政金融政策を継続することを主

▼マクドナルド大蔵大臣



眼にした、と説明している。

また同大臣は、下院での演説の中で、今年の国民総生産（GNP）の成長率を約五パーセントと予測し、消費者物価の年間上昇率も八パーセントにおさまり、雇用状況も改善されると述べた。また外国為替取引を除く財政需要は、四十六億ドル台だった一九七五・七六年とそれほど変わらないが、七七・七八年には相当落ち込むものと予想している。

予算案の内容は要旨次の通り。

インフレ対策 物価・所得に関するインフレ対策の規則を改め、すべての企業が上昇コストだけでなく利益に対する値上げの影響をも考慮に入れた利幅基準を満たすよう義務づけ、政治献金を「制限支出」に加え、慈善寄附や認可済み研究

開発費をはずし、十月十五日付きで企業が年間配当金を八パーセント上げること

を認める。
失業保険法を改正して、給付を受ける資格を在職八週間から十二週間にのばし、給付期間を就職期間の長さに連結させ、また退職金が失業保険給付の受給資格に影響を与えないようにする。

関税 二つの例外を除き、六月三十日

に期限切れになる予定の暫定関税引下げを一年間延長する。豚鮮肉、ハム、ベーコン、マカロニなどの食料費を五月二十六

日付けでリストに加えタイ

ヤ、チェア、ハサミは六月三十日ではずす。

現在二・五パーセントの関税つきで英国とアイルランドから輸入しているコンプレッサと発電セットは、ただちに最優国民待遇レートで十五パーセントの関税がかけられるようにする。ただし、こうした機器がカナダ国内で求められない場合は、免税になる。

資源節約 産業廃棄物を燃料源として回収し、また都市廃棄物からエネルギーを産出する機器に対し、二年間の税控除を適用する。

エネルギー節約に役立つ太陽熱などの代替エネルギーの開発を奨励する物品から連邦取引高税を除外する。

資源課税 探査費用を完全免税にする立法措置をとる。

メダルは何個？

大会目指して励むカナダ選手

モントリオール・オリンピック大会では、それぞれ四百七十四個の金、銀、銅メダルが授与されるが、そのうち何個がカナダ選手の手

に渡るだろうか。
カナダは、一九〇四年のセント・ルイス大会で金メダル四個、銀メダル一個を獲得して以来（ただし、一九〇〇年大会で、米国チームのメンバ



▲ナンシー・ギアラビック(水泳)

ーとして参加したカナダ人が三千メートル障害で金メダル、四百メートル・ハードルで銅メダルを得ている、数々の栄誉に浴してきた。しかし、アムステルダム大会で男子百メートル、二百メートル両競走の金メダルを



奪ったバーシー・ウィリアムスなどのように、ときおり名選手が現われたもの全般的に言って、カナダ・チームの成績には波がありすぎた感も否めない。最近の成績をみると、ローマ大会では銀メダル一個、東京大会では金メダル一個（かじ無しペア）、銀メダル二個（男子八百メートル競走、重量級柔道）、銅メダル一個（男子八百メートル競走）、メキシコ大会で金一個、銀三個、銅一個（計五個のうち四個は水泳）、ミュンヘン大会

で銀二個、銅三個（うち四個は水泳）。

こうした、あまりかんばしくない成績を反省して、一九七三年、カナダのオリンピック協議会やその他の諸スポーツ団体、連邦および州政府などが一体となって、ゲーム・プランという選手強化計画をたてた。東京大会のボートで優勝したロジャー・ジャクソン氏（の



ちに、体育と生理学で博士号を取得、またカナダのスポーツの栄誉殿堂に加えられている）などを中心に強化計画が進められ、各選手がその能力に応じて組分けされてきたほか、いろいろな大会で訓練を積み重ねてきた。

カナダが得意とするのは、元来、冬季のスポーツであるが、こうした強化訓練もあって、昨年の世界学生競技大会（ローマ）では金メダル一

個、銀メダル五個、銅メダル一個を獲得したし、パン・アメリカン競技大会では九十一個のメダルを得ている。さてモン



トリオールでは何個とれるか——。

▲ダイアン・ジョーンズ(陸上)

▲ステイファン・ピッケル(水泳)

カナダの新エネルギー政策

今後10年間に自己依存を推進



—— 石油パイプライン
 製品用パイプライン
 - - - - - ガス・パイプライン
 ● LPGパイプライン
 精練所

カナダ政府は、四月、十年以内のエネルギー自己依存という国家目標をかけた、新エネルギー政策を発表した。

議会に同計画を上程したギレスピー・エネルギー大臣によると、新政策は「輸入エネルギー源に対するカナダの依存度をできるだけ少なくし、かつ、確実な国内エネルギー資源にできる限り自己依存できるようにするため」。

主目標のひとつは、国内石油価格を国際水準に近づけ、天然ガスの国内価格を今後二・四年間に石油の適正競争価格にもっていくことにある。カナダにおける国内石油価格は、国際価格が上昇し始めた一九七三年九月以来、管理されてきた。そのため、国際価格がその間に五倍もはね上がったのに対し、一九七三年にパーレ

ル当り三ドル六〇セントに凍結された国内価格は一九七四年に六ドル五〇セント、昨年七月に八ドルに値上げされただけで、国際価格に比べて四ドル六〇セントも安い。

エネルギーの自己依存を高めるといふことは、要するに、価格あるいは供給が変動しがちな輸入原油を減らして、国内資源を有効に利用し、かつ輸入原油の供給が止まった場合でも国内で補給できるようにするといふもので、そのためにカナダはエネルギー需要の成長度を下げ、新しい国内資源と新しい生産、分配、エネルギー転換（石炭のガス化など）、および利用技術の探求、開発を促進せねばならない、と政府は指摘している。そしてこれらの目的を達成するため、国民は国際価格に近いエネルギー価格を支払う必要がある、また連邦・州間の建設的協力や資源節約などにおける政府の指導が欠かせない、と政府は同政策の中で述べている。

政府が発表した「カナダのエネルギー戦術——自己依存のための諸政策」は、今後十五年間におけるカナダのエネルギーに関していくつかの可能性を推定し、これらの可能性が示す諸問題を検討するとともに、これらの問題を解決するため、次のような政策要素、目標、必要措置を掲げている。

● 国内石油価格を国際レベルに近づけ、天然ガスの価格を今後二ないし四年間に石油と適正な競争関係になるようにもっていく。また輸出エネルギーの価格を国際価格もしくは輸出先の市場価格と同一にする。

● 今後十年間のカナダにおけるエネルギー

の平均成長率を年間三・五パーセント以下に抑える。それにより、新エネルギー生産のための資金需要もかなり少なくて済む。

● 一九八五年時点でのカナダの輸入石油に対する純依存度を、国内総石油需要の三分の一にまで下げる。

● 受容できる社会的、環境的条件の下で、今後三年間に、カナダのフロントニア地域における探査開発を少なくとも倍加する。一九七六―八〇年の期間に要するエネルギー探査・開発費は百億ドル（探査に約七〇パーセント）を越すものと見られている（一九七五年の投資は約十五億ドル）。探査・開発活動は高度に継続することが肝要で、そのため政府はフロントニア地域の探査に積極的に従事する予定資金十五億ドルのペトロ・カナダを設立した。

● 受容できる条件下で、北方資源に市場性がでてくるまで、天然ガスの自己依存を維持する。

● 新輸送体系の整備。州間パイプラインのモントリオールまでの延長により、西部カナダからモントリオール市場へ石油が直接送られることになった。将来は北極や西部沿岸からも東部へパイプラインを延ばして、モントリオール・オンタリオ市場へ石油を輸送する必要性も増してこよう。天然ガスをフロントニア地域から供給する構想も検討されているが、これについてはバーガー委員会とエネルギー審議会の報告を待つて決める。

● 代替エネルギーの利用。輸入石油の代わりに、できるだけ石炭、水力、原子力などの国内資源を利用して発電し、天然ガスを北方地域や西部から大西洋諸州

やケベックに輸送する可能性を探求し、石炭のガス化などのエネルギー転換や太陽、風力エネルギーなどの利用を図る。代替エネルギーとして特に有望なのは石炭と原子力。原子力による発電は一九九〇年までに二万メガワット以上も伸び、新電源の三分の一を占めることが予想される。

● エネルギー備蓄

● 技術開発

● エネルギーの探査・開発におけるカナダの参加度を増大するための法律を整備し、またペトロ・カナダが探査・開発に加わる。ウラニウムの新開発については外資比率を三三パーセントに制限する。今後十年間、カナダにとって、エネルギー問題はきわめて大切。カナダのエネルギー消費量の六五パーセントを占める石油と天然ガスは、これから十一・十五年間は最も重要なエネルギー源としての地位をゆずらないだろう。もし自己依存への計画なしに現在の傾向が続いた場合、十年後には年間必要量の四〇ないし四七パーセントを輸入せざるを得なくなるおそれがある。

自己依存はいかなる対価を払っても自給を達成しようということではない。カナダが今後十五年間にすべての石油輸入を廃止することは無理であろう。現在の輸入増加傾向を逆転するには時間がかかるし、自己依存の基礎となる資源開発や輸送システムの整備には金も時間もかかる。経費から見れば、むしろ輸入を継続したほうが望ましい。その場合、自己依存とは輸入が長期間にわたって削減されたときに、十分の緊急用備蓄を保有するということを意味する。

トピックス

ボーフォート海での石油掘削

環境保護の条件つきで許可

カナダ政府は、このほど、ドーム・ベトリウム社に対し、九月十五日まで北極ボーフォート海の無永海域における石油・ガスの掘削を、環境保護の特別安全措置の条件つきで認めた。

政府としては、一方においてますます増加するエネルギー需要とボーフォート海海底の有望な大石油・ガス資源、それにドーム社の大規模な資金投入、他方で環境破壊の危険性と環境問題に対する周辺住民や米国の懸念を検討していたが、環境破壊の危険性は少ないと判断、掘削を許可することになったもの。

民族舞踊団「シユムカ」が日本へ ジャスパール・箱根姉妹提携を記念

アルバータ州ジャスパールと箱根町の姉妹国立公園親善提携五周年を記念して、アルバータ州の首都エドモントンからウクライナ文化を継承する民族舞踊団「シユムカ」がオリ



ンピックでの出演のあと来日、八月一日から二十四日まで公演する。場所は箱根小涌園こどもの村にある「グリーン・パレス」体育館。時間は、八月十七日から二十日を除いて、毎日午後一時半より約一時間。問合わせは

藤田観光株式会社（電話〇三・四三三・五一五）へ。

通信衛星を利用して墜落機探索 カナダ通信省が実験に成功

カナダ政府通信省の通信研究センター（CRC）は、このほど通信衛星を利用して墜落航空機の探索・救助方法を開発し、その実験に成功した。アマチュア衛星局（AMSAT）のオスカール六号衛星と模擬遭難信号を使って行なわれた実験では、比較的安価、低空の北極軌道衛星によってカナダ内外の墜落地点を五マイル以内の正確さで、しかも信号発信後わずか十五分以内に当てることのできた。現在、米国、カナダ、日本など各国の航空機には、墜落するとただちに発信を開始し、百時間以上も作動し続ける緊急信号発信装置（ELTS）が義務づけられており、衛星が三つあれば世界のどの地点でもこの信号をキャッチし、早急に探索・救助活動ができるという。

日本チームがみごと二位に レジャイナの操車場跡地利用計画

サスカチュワン州レジャイナの操車場跡地利用計画コンテストで、株式会社ポリテクニク・コンサルタンツと清水建設の共同プロジェクト・チームが二位に入賞、賞金一万五千ドルを獲得した。レジャイナでは、鉄道移転に伴ない、市中心部にある線路および操車場の跡地およそ百四エーカーの有効利用について世界的にアイデアを求めた。これに世界各国から百二十一点の応募がなされ、今年一月の第一次選考で五点に選ばれた。五月に開かれた第二次選考は住民投

票と国際的審査団の審査があり、その結果、日本チームは住民投票で第一位、住民投票の結果を加味した総合では第二位に選ばれた。第一位はパリのミシェル・ドゥプレー・クレール、ドゥプレー・チーム。

日本プロジェクト・チームの代表で、ポリテクニク・コンサルタンツ専務取締役代表の谷村秀彦氏は、ウイニベック大学で都市計画を専攻、同大学で教えたこともあり、カナダ都市計画協会の会員でもある。同氏によると、日本チームの作品を含め、第二次選考作品はいずれも町の中心部を活性化してダウンタウンに住民を呼び戻すための建物を作る、ダウンタウンを補強するためある程度の事務所などを設ける、集合場を多くとる、自動車道路と歩行者道路を完全に区別することなどを盛り込んでいた。

カナダ、漁業水域を二百カイリに 大西洋沿岸の魚資源を守るため

カナダ政府は、六月四日、来年一月一日までに漁業水域を二百カイリに延長すると発表した。特に大西洋沿岸で魚資源の枯渇が急速に進んでいるために、カナダの漁業を保護する必要上この措置がとられるもの。

ただカナダ政府としては、北西大西洋漁業国際条約（ICNAF）諸国との二国間取決めで約束しているように、カナダの漁獲能力を越える分については二百カイリ水域内での他国の漁獲を許可する方針で、これに関する話し合いには応ずる構え。また、この漁業問題を含め、大陸棚や海底に関する経済水域の問題についても、カナダとしてはできるだけ国連海

洋法会議で多国間協定による解決を期待していることには変わりない。

関東短大で「カナダの日」

関東短期大学（群馬県館林）では、五月、「カナダの日」を催した。これには同短大の松平八重子教授（学校法人関東学園理事）の招きで、カナダ大使館からジョーンズ二等書記官（文化・学術担当）と秘書のジュン・サリバンさんが出席、約百五十人の学生を対象にカナダの映画を紹介したほか、エッセイ・コンテストの入賞者に記念品を贈った。また、カナダに関する熱心な質疑応答があつて有意義な時を過ごした。

人事往来

○松形林野庁長官、浅村住宅金融公庫総裁、救仁郷建設省住宅局参事官ら、林産工業、住宅事情、住宅産業（特に枠組壁工法）などの視察のための訪加（六月）。

○カナダからコークス製造技術ミッション来日（六月）。

○宝飾業者ミッシェン訪加（六月）。

○トロントの打楽器奏者グループ「ネクス」が日本で公演（六・七月）。

本紙は、カナダ大使館から二カ月に一回発行されます。本紙掲載内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番三十八号
カナダ大使館広報部